

12月11日実施 進路学習会 <多様な進路を考える> 報告

報告者の皆さんには川崎市生涯学習プラザに来ていただき、301会議室から発信しました。

○ 川崎市特別支援教育センターの室長：伊藤琢也先生からは、市内中学校特別支援学級の進路状況について高校など進路が多様化している状況の報告に加えて、今後の課題が提起されました。中卒後の3年間でどんな力を身につけたいのかお子さんの状況に応じた対応が必要であり、正しい情報に基づく進路選択が大切だと話されました。

○ 県教育委員会インクルーシブ教育推進課指導主事：栗原昌広先生は神奈川県内の公立高校でのインクルーシブ教育のこれまでの経過と現状、実践推進校の具体的な取組、特別募集の実施時期や方法等について説明がありました。

○ 川崎市発達相談支援センター・所長：阿佐野智昭先生は、進路を選択するにあたって心に留めておきたいことと題して相談者の立場で、増えてきた選択肢の紹介、選ぶ時のポイント、絞り込むコツ、本人が自分で選んだという感覚の重要性など語られました。

○ 現在美術大学で学ばれている山崎勘太郎さんは、幼少期から小・中・高の頃のエピソードを交えながら、進路選択、受験の体験など大学生の今に至るまでの貴重な体験と将来の夢を話されました。

会場参加者26名（報告者・運営スタッフを含む）、オンライン参加45名、で充実した学習会ができました。

進路学習会 質疑&感想を紹介します

◎インクルーシブ教育実践推進校について

Q. インクルーシブ実践推進校の中でも偏差値等の違いがあるが、子どもの学力にあった場所を選んだ方がいいですか？

A. 通学時間や学校の取り組みで自分に合っている場所を検討すると良い。

学習については、授業中の様子や提出物などの課題に取り組む姿勢を大切にしながら評価をしている。

Q. インクルーシブ実践推進校は、各学校、同じ取り組みをしていますか？

A. インクルーシブ推進校の中で、ガイドランなどは設けずに各学校の特色を生かしながら教育活動を行っている。

学校によっては、個別に授業をする場面もあるが、集団の教室の授業とつながりのある学習を行っている。

◎入学者選抜について

Q. 入学者選抜について

A. 過去の入学者選抜では、定員が上回る学校もあった。しかし、令和4年より通学地域がなくなり、どの実践推進校にも志願ができるようになったり、新たに令和6年度から募集（現在の中2）をする学校も増えたりすることから、志願できる幅は広がってきている。

◎肢体不自由のある子どもの進路について

Q. 肢体不自由のある子どもの進路について

A. エレベーターなどの施設面は、学校説明会などで確認をすると良い。

肢体不自由のある子どもは、一人ひとり異なることから、個別に相談をしていくことが大切。

その際に主治医の意見やこれまでの取り組みを事前にまとめておくと相談がしやすい。



山崎様、息子もわにの家を利用しており、今日の資料を見せて話をすると、「わにさんで聞いた事あるよ!!すごい!!(絵を見て)」「すごい人だね!!」と話をしてくれました。

自分の将来に進学は全く無いものだと思っていたようなので、自分にも進学という選択が出来るかもしれないという希望につながったようです。育ちの過程をお話してくださり、ありがとうございます

いました。話したくない内容もあったと思いますが、ご自身の成長の一部として話をしてくださりありがとうございます。

共感する事も多く、息子のこれからの成長に希望を持つ事ができました。お時間を作って頂きありがとうございます。大学生活、楽しんで頑張ってください。これからのご活躍をお祈りしています。